物流システムで飛躍・発展誓う

トーヨーカネツソリューションズ　強さの秘密

社長対談

卸・小売などの流通業や生協、空港など、幅広い分野に効果的な物流システムを数多く提案・納入しているトーヨーカネツソリューションズ。豊富な納入実績が示すシステムの信頼性や、顧客企業の環境戦略・安全対策を側面支援する高い技術力などを武器に、国内外で積極的に市場を拡大中だ。同社の柳川徹社長に、日刊工業新聞社の井水治博社長がその強さの秘密や目指す企業像を聞いた。

柳川　徹社長

「環境」「省エネ」「安全」対策を支援

ソリューション企業標榜

顧客の側に立つ営業

豊富な納入実績

システムの信頼性

井水　お話しを伺う前に、東日本大震災は、東北・北関東などの広い地域で甚大な被害をもたらしました。御社もご苦労されているのではないでしょうか。

柳川　まずは被災された方々に心よりお見舞いを申し上げます。当社については大震災による影響はありませんでしたが、被災地のお取引先の物流センターに一部支障が出ており、その対応に追われています。物流システム納入先の一日も早い再稼働に全力で取り組んでいるところです。

井水　自然災害への対応はもとより、産業界にとって「安全」対策はとりわけて重要だと痛感させられます。御社はその「安全」と「環境」「省エネ」をキーワードにシステムを開発し、顧客提案されていますね。

柳川　まず「安全」に関連したシステムとしては、例えば昨年10月に開業した羽田空港国際線旅客ターミナルに手荷物搬送システム（BHS）を納入し、順調に稼働しています。24時間休みなく稼働し続ける国際線ターミナルでは、安全・正確な定期運航を実現するために手荷物を正しく渡航先別に仕分け、所定時間内に搬送する必要があります。さらに国際線の場合はテロ対策もあって、BHSでの安全対策も強く問われているわけです。

そこでBHSに検査システム「インラインスクリーニングシステム」を組み込み、搬送システムのライン上で4段階の検査（AT自動検査、画像データ検査、EDS自動検査、画像データ検査およびETD補助検査）を行い、手荷物内の爆発物混入を厳格にチェックするシステムとしました。この検査でも疑わしい手荷物があると認識した場合は、乗客の了解を得て荷物を開封する第5次検査（開披検査）を実施するなど安全対策は徹底しております。

一方、「環境」「省エネ」関連では、09年に開発した搬送システム「エコロベヤ」が戦略システムの一つです。これはコンベヤ全体を稼働させず、荷物が載っている前後のコンベヤだけを稼働させる仕組みで、消費電力を従来比で70％も削減できます。また「ラベループ」という装置は、物流拠点での業務効率化・省エネを図る製品として顧客企業にご提案しています。この装置はレーザーを使い、リライタブルラベル（繰り返し書き換えが可能なラベル）に出荷情報（バーコードなど）を自動で印字するため、ラベルなどの廃棄物を削減でき、そのラベルを剥がす作業も不要となります。

日刊工業新聞社社長
井水　治博

正確・効率　顧客に提案

井水　羽田空港国際線ターミナルへのBHS納入実績をご紹介頂きましたが、御社はそのBHSを実に世界16カ国・国内56空港に納入しているのですね。BHSやその他システムの海外展開についてはいかがですか。

柳川　韓国の食品メーカーに納入したピッキングや仕分けなどの物流システムがこのほど稼働しました。これを機に韓国に支店を開設したほか、現地の製造業や情報関連企業とパートナー契約を締結しました。空港分野についても、約10年前にマレーシアの国際空港にBHSを納入した経験を生かし、東南アジアを中心とした各国に最適なシステムを提案していきます。韓国のほか、具体的に受注見込みが立てば、現地での生産体制の整備も検討したいですね。

井水　国内外を問わず、営業面では顧客企業との「密なディスカッション」を重視されています。

柳川　09年4月の社長就任時に、当社の強みと弱みを洗い出す「アクションプラン」をつくり、約1100のアイデアを募り実行してきました。ハードを売ることだけに専念したり、競合他社との価格競争に巻き込まれてもいけない。当社はメーカーでありながらソリューション企業を標榜しています。お客様とのディスカッションを通じ、最適なサプライチェーンを運用できるシステム提案を実践しています。

営業現場ではお客様の真のニーズを汲み取り、コンサルティング能力を最大限に発揮することが重要で、極端な言い方をすれば、例え結果として自社のハードが売れなくても、最適なソリューション提案ができればいい。そのくらいの営業姿勢で臨まなければ、お客様と胸襟を開いたディスカッションは実現できません。

井水　ハードの開発のみならず、ソフト・サービス力の強化を重視されていますね。そこで来年度、さらに中期的な経営計画については何を重視されますか。

海外市場も積極開拓

戦略製品さらに拡充

柳川　当社はメーカーなので、モノづくりには拘っていきます。まずは12年3月期にヒトと資金の両面で投資を積極化し、戦略製品である物流システムをさらに強化する考えです。そのためには海外を含めたあらゆる成長の可能性を探る必要もあるでしょう。当社の業績は10年3月期が非常に好調で、翌11年3月期にその反動も出ますが、12年3月期は飛躍・発展の年にしたいですね。

井水　最後に、御社が目指す「10年後」の企業像をお聞かせ下さい。

柳川　難しいご質問ですが、まずは経営基盤をかつてないほど強固にし、その基盤を次世代に渡すことが私にとって大きな課題となります。お客様のニーズに迅速・的確に対応し、最適なソリューションを提案できる感性を磨いていけば、必ず市場をリードできる。それが当社の企業価値の源泉だと思います。そして社員一人ひとりが夢を持って業務に従事できる、そういう会社にしたいと思っています。

井水　顧客企業と社員に対する柳川社長の熱い思いが伝わってきました。本日はお忙しい中、ありがとうございました。

空港手荷物搬送システム（BHS）

自動倉庫システム「マルチシャトル」

省エネ型コンベヤ「エコロベヤ」

リライタブルラベル装置「ラベループ」

会社プロフィル

【社　名】トーヨーカネツソリューションズ株式会社
【所在地】〒136―8666　東京都江東区東砂８―19―20
【ＴＥＬ】03―5857―3126　【ＦＡＸ】03―5857―3180
【業　種】物流システムの企画、設計、製作、施工および営業。主力製品は流通、空港、郵便などの物流システム（コンベヤ、仕分け装置、WMSなど）。中でも空港手荷物搬送システムでは国内ナンバーワンの実績を誇り、生協など流通業界にも強い。

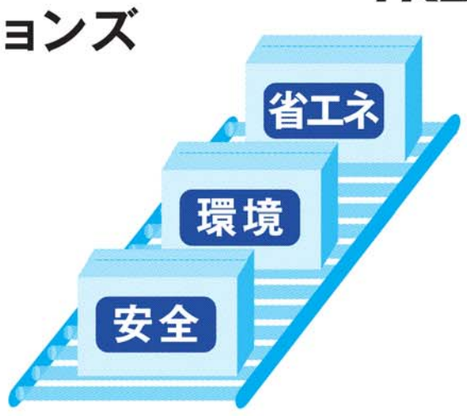
震災に遭われた皆さまへ

平成23年3月11日に発生しました東日本大震災の
被害に遭われた方々にお見舞い申し上げるとともに、
お亡くなりになられた方々に哀悼の意を表します。
被災された皆さまに一日も早く平穏な生活がまいりますことを、
心よりお祈り申し上げます。

トーヨーカネツソリューションズ株式会社

豊かな未来を見据える
トーヨーカネツソリューションズ

トーヨーカネツソリューションズは
豊かな未来を見据えて、
「安全」「環境」「省エネ」問題に
いち早く取り組んできました。
時が流れても、変わらず
信頼していただける企業であるために
トーヨーカネツソリューションズは
努力を続けてまいります。



TKSL

トーヨーカネツソリューションズ株式会社
本社営業部／〒136-8666 東京都江東区東砂8-19-20　Tel：03(5857)3132
西日本営業部／〒566-0011 大阪府摂津市千里丘東1-9-2　Tel：072(645)2530
http://www.tksl.co.jp　TKSL　検索